



年が特に参加者が少ないわけではないのですが、どの先生も一生懸命話して下さるので、個人的にはもう少し多くの人に参加してもらえると良かったと思います。

また例年通り、情報エレクトロニクスについての最新の技術を見て触って直接体験することができる「最新科学体験コース」も次の11件が行われました。

【進化する画像処理技術】

古い映画を蘇らせよう！

一次世代のマルチメディア処理をめざしてー

【人に近づくコンピュータ】

言葉がわかるコンピュータの可能性にせまる

【安全・安心をささえる電波工学】

テロ対策 一ミリ波カメラを体験しようー

【安全・安心をささえる超伝導工学】

浮いてる！揺れない！地震に強い超伝導免震装置

【医療をささえる超音波工学】

体の中を覗いてみよう！医療用超音波

【プラズマの科学】

触ってみよう！未来を拓く神秘の光「プラズマ！！」

【音声認識の世界】音声と音楽を理解するテクノロジー

【人に近づくコンピュータ】コンピュータの知能に挑戦

【ナノテクノロジーの物理】

究極の微小磁石が拓く未来技術

【電気通信研究所】

コミュニケーションの未来を見に行こう！！

【ハイパワー電気の未来】

未来を拓く電気自動車ータイヤの中にモータ？

これらの公開展示は講義棟に隣接する大会議室および玄関ロビー等で行われ、それぞれの会場ではその動的な展



示を見て驚いている皆さんの歓声が響いていました。また、今年も講義棟において、電気通信研究所が4つの公開展示を行い、こちらも多くの参加者でにぎわっていました。今年も震災の影響で場所のやりくりが大変で見学者の導線に心配がありましたが、ガイド学生さんの協力や案内掲示の工夫などにより大きな混乱もなく誘導が行われ、どこの展示も盛況に行われていました。

各研究室の公開展示は、おもに電子情報システム・応物系2号館、総合研究棟、および今年新設された総合実験棟と例年は使用していなかった南実験棟も利用して行われました。中・高校生を対象に、数名のグループを当学科の学生がガイドとして引率し、いくつかの研究室を1時間程度にわたって見学する「見学ツアー」には、多くの中高生が参加され、大学生活についてのいろいろな質問を引率する大学院学生や学部学生に投げかけながら、和気あいあいと研究室見学をされていました。アンケートの結果を見ても、学生ガイドは非常に好評で、来訪者の9割を占める高校生・高専生が大学生活を身近に感じる良い機会になっているようです。

情報知能システム総合学科オープンキャンパスは、当学科の研究の一端を一般の方々に紹介するとともに、中学生、高校生の皆さんに先端技術に触れていただくことを目的としています。参加される中高生の多くは、これからの進路を考えるうえで、オープンキャンパスでの体験が大きく影響するようです。今回参加された皆さんのなかの一人でも多くの方々が情報知能システム総合学科に入学され、これからの科学技術を支えていく人材として育てていかれることを願ってやみません。

同窓生の皆様にも、本学電気・情報系で展開されているさまざまな最新の研究内容をご覧いただければ幸いです。(木下賢吾 記)

第47回電気・情報系・通研駅伝大会 (第6回伊藤杯) 報告

第47回を迎える電気・情報系・通研駅伝大会が11月26日(土)に開催されました。晩秋の1日ごとに寒さが増す時期でしたが、駅伝当日は快晴で気温も12度と絶好の駅伝日和となりました。本年は、震災の影響で仙台

城跡脇道路が通行止めとなり、バイパスとしての青葉山地区の交通量の増加により、例年のコースからの変更が必要となり、川内へ降りていく区間を廃止し青葉台への往復を2回行う、青葉山を時計回りでなく反時計回りに走る、道路を横切つてのバトン渡しの導入、などの修正が加えられました。

開会式では大会四連覇中の加藤研究室の代表者による



優勝杯の返還と選手宣誓が行われました。そしてランナーたちはそれぞれのスタート地点へ。建て替えのため1号館を背にしてスタートを切るのは今年が最後になります。「絶対に一番を取る」、「隣の研究室だけは負けない」、「とにかく無事完走できれば」、様々な思いを胸に、午前10時30分過ぎ、全53チームの第一走者たちが電気系前1号館前からケヤキ並木に飛び出していきました。今年も最初に工学部前の急坂を一気に駆け下りて、そこから理学部へ長い上りが続くというスピード・スタミナがともに要求されるコースで、自分の力の限界まで走り抜いて、タスキを渡すと倒れこむ走者の姿も見られました。後続の走者も走る前はそれぞれのスタート地点で談笑していますが、出番が近づくと表情も神妙になり、タスキを受け取ると一心不乱に駆け出していきます。

レースを制したのは加藤研究室でした。早い区間で後続に差をつけ突き放すという圧勝で五連覇を飾りました。その後を追って、次々に最終第10区走者が電気系正面玄関に走りこんできます。苦しそう表情の走者に研究室の仲間が伴走してゴールし、歓喜とねぎらいの輪がそこそこに広がるのを見ると、スポーツが人と人とを結びつける強い力を持っていることにあらためて気づか

されます。閉会式では、順位発表と上位研究室の表彰、ラッキー賞、プービー賞、特別賞などの授与で101大講義室が大いに盛り上がりました。今年はコースの全長が15kmとやや長くなり、60分を切る事ができた研究室は昨年までは10以上ありましたが今年は数チームでした。鬼が笑うような話ですが、今年の結果が研究されることで、来年は同じコースでもさらにレベルの高い戦いになることが予想されます。

最後になりますが、大きな震災に見舞われながら本年も無事に駅伝大会を行うことができました。今回の駅伝大会の企画・準備・運営を担当していただいた、青葉山幹事の山田・大寺研究室、通研幹事の木下研究室の学生の方々をはじめ、多くの方々のご協力を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。

なお、主な成績は以下の通りでした。

優勝	加藤(寧)研(西山大樹は子煩悩)	55分54秒
準優勝	松木・佐藤研(アイスじゃんけん)	58分03秒
第3位	鈴木・岩谷・坂本研(鈴木陽一位)	58分40秒
第4位	青木研(青木研)	59分28秒
第5位	安達研(10巻き爪boys☆)	59分35秒
第6位	濱島・津田研(濱島・津田研)	59分41秒
第7位	安藤(晃)研(安藤(晃)研究室)	60分25秒
第8位	中沢研(光はわしが育てた)	60分31秒
第9位	澤谷・陳研(69ers)	60分46秒
第10位	佐橋研(佐て！橋るかあ。。)	60分57秒

(電気・情報系親睦会運動部 城田松之)

国際会議

第41回通研国際シンポジウム

第7回 RIECスピントロニクス国際ワークショップ

The 7th RIEC International Workshop on Spintronics

2011年2月3,4日の両日に、本学電気通信研究所主催の標記国際ワークショップが附属ナノ・スピン実験施設において開催された[組織委員長:大野英男教授、本学省エネルギー・スピントロニクス集積化システムセンターでの1st CSIS International Symposium on Spintronics-based VLSIs(2月3,4日)とのジョイント開

催]。参加者は126名(国外から21名)を数えた。アメリカ、フランス、ポーランド、モロッコ、韓国、日本から18件の招待講演と22件の一般講演があった。磁気トンネル接合、磁性細線の材料物性から、それらを利用したスピン注入磁化反転・磁壁移動特性、理論解析、集積回路まで、基礎物理から最新の工学応用を含む幅広い話題をカバーした。活発な議論を通しスピントロニクス集積回路の研究開発動向・課題および将来の方向性が明らかとなり、有意義なワークショップとなった。学生の参加も多数あり、学生の国際性を育むという観点からも成果を得ることができた。(大野英男 記)

